

H u g でお会おう、新しい私

板林 恵

大船渡市にある盛駅前セレクトショップ「H u g」には、レディース服や子ども服、アクセサリなどのおしゃれで洗練されたアイテムが並ぶ。オーナーの鈴木雅美さんが、シンプルで流行に左右されないもの、かつ機能的にも優れたものをセレクトしている。

H u g という店名にしたのは、鈴木さんが気持ちがホッとする感覚が好きでいろいろな人にハグしてしまうから。「H u g のお洋服を着て、この空間に包まれるような温もりで心を満たして」という思いを込めた。2児の子育て経験から店内中央にはキッズスペース、窓側にはお茶っこスペースを設け「ママがゆっくり買い物と息抜きできる場所に」という夢を叶えた。

お洋服ってすごい！

鈴木さんにとっておしゃれとは、誰かに見せるためにするのではなく、自分のテンションを上げるためのものだ。

その出会いは“陰キャ、だった高校時代にさかのぼる。当時、住んでいた一関市のファッション店を訪れた際、店員が勧めてくれたTシャツとキャミソールの重ね着の可愛さに驚いた。また、その洋服が自分をポジティブにしてくれることにも。その店に通うほど夢中になった。

大学卒業後、約20年にわたり福祉施設で働いた。仕事は充実していたが、大好きなおしゃれは休日だけのお楽しみにせざるを得なかった。異動を機に今後のキャリアを見つめ直したところ「これは本当に私がやりたいことだろうか」というモヤモヤがぬぐえなくなった。

ある日のランチ中、これを友人に打ち明けると「結局、雅美ちゃんは何がしたいの？」と訊かれ「お洋服屋さん」と迷わず答えた。「お金のことや、お嫁さん・母親といった、自分をしばる鎖をすべて外して純粋に考えたらすぐに答えが出た」と話す。

友人の「じゃあ、それなんじゃない」という言葉に後押しされ出店を決意するも、アパレル経験はゼロ。服の仕入れ方法も分からなかったが、愛用ブランドに直接連絡し取り引きにこぎつけたことも。思いを言葉にすると行動が変わり、物事が動き出すのだと起業を経て気づいた。「ワクワクすることを、ちゃんと自分で選択してきたのかもしれない」と当時を振り返る。

願いを叶える人を後押ししたい

H u gでは、さまざまな世代の人が鈴木さんとの会話を楽しみながら洋服選びをしている。単に洋服を販売するだけではなく、おしゃべりに立ち寄ったついでにお気に入りの一着を見つけられるあたたかい空間だ。「買わないと気まぐずいかな？」と思う必要はない。笑顔で帰るお客さんを見送るたびに、鈴木さんは幸せを実感している。

「迷っている人がいたら、その背中を押ししたい。願いを叶える人が増えれば、その人たちが輝いて、もっと素敵な大船渡になると思うから。『夢が叶いました』という言葉がモチベーションかな」と笑顔で語る。

あなたもH u gで新しい自分に出会えるかもしれない。高校時代の鈴木さんのように。

【まちおし AWARD 添削プログラムを受けての感想】

1,200文字という制限があったため、情報の取捨選択がとても難しかったです。学生時代、仕事をしていた頃、開店までの経緯までの出来事を多く盛り込んだ結果、駆け足で経歴をなぞる内容になってしまいました。

「印象的だった」という抽象的な表現に頼るのではなく、「何が、どのように」を具体的に伝えることが大切ですね。行動によって変化が生まれることを伝えるために、強調すべき点に十分な分量を割くよう、構成を考えることが重要だと改めて気づきました。

講師の皆さまがそれぞれの視点で添削してくださったことで、改善点に気づくことができました。貴重なご指導と執筆の機会をいただいたことに心より感謝いたします。

板林 恵